

雛人形に彩られ、華やぐ商店街

ごとうじひなめぐり

2月25日～3月3日、後藤寺商店街で「ごとうじひなめぐり」が開催されました。13回目を迎える本年は、空き店舗を活用した4か所の特設会場と各店のショーウィンドウや店内にひな人形を設置。商店街内をすみずみまで歩いて楽しめる工夫が施されました。

また、市内の保育園や幼稚園、小学生の子どもたちが描いたおひなさまのほか、西田川高等学校の生徒が製作した「立ちびな」も展示。同校の生徒による書道、吹奏楽、空手のパフォーマンスも行われ、地域との交流を深めました。2日には市のマスコットキャラクター「たがたん」も会場を訪れ、子どもたちと写真撮影するなどしてイベントを盛り上げました。▲1mを超える圧巻の「立ちびな」



▲協定書を手にする南国殖産の永山在紀社長(左)と二場市長(右)

新産業へ高まる期待

バイオマス発電所に関する協力協定を締結

2月5日、市は「南国殖産(株)」と田川バイオマス発電提案事業に伴う協定を締結しました。

この協定は、森林に放置されている木材を燃料にして発電するバイオマス発電所を楠地区周辺に設置し、廃熱を農業にいかす同社の事業提案に相互に協力するというもの。発電所で1年間に作られる電力は1千599万キロワット(3千520世帯/年)で、電気は九州電力に売電されます。発電施設周辺に建設を検討している植物工場では、ベビーリーフなどの生産と最大90人の雇用を予定。

二場公人市長は「新産業の創出につながる事業として、今後の実現を願っています」と事業への期待を述べました。



ドイツからやってきた国際交流員(CIR)のアネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから
QRコード➡



イースターの動物:イースター・バニー

キリスト教に由来する祝日「イースター」。日本語で復活祭とも呼ばれています。本来は亡くなったイエス・キリストが生き返ったとされる日として祝われていましたが、現在では宗教的要素とお楽しみ要素が入り交じった祝日です。お楽しみのひとつは、世界中の子どもたちが大好きな「イースター・バニー」です。イースターの日に、うさぎが庭に卵やチョコ、プレゼントを隠すという話が、ドイツで生まれたことは知っていますか。研究によると、ドイツ語で「Osterhase」と呼ばれるイースター・バニーは、17世紀にドイツで書かれた論文がきっかけとなり広がり始めたそうです。19世紀にはドイツから世界へ。子どもた

ちが親に見守られながら、庭でイースター・バニーからのプレゼントを探すという習慣が世界中で大人気のイベントとなりました。そして、ドイツには、イースター・バニーの郵便局が3つあります。子どもたちがイースター前にイースター・バニーへ手紙を送ると、返信の手紙が届きます。本年のイースターは4月21日(日)。私もみなさんと一緒に「Happy Easter」をお祝いしたいと思います。



今日の言葉
Frohe Ostern!(Happy Easter)